

## ナイルとファラオの夢の跡 感動のエジプト紀行8日間

1月28日エジプト最後の滞在日となった、今日はエジプト考古学博物館とオールドカイロの街を見学する。

### 1 朝の聖セルギウス教会へ

7.30" にホテル出てカイロ発祥の地でもあるオールドカイロの、聖セルギウス教会(アブ・サルガ)を見学した。コプトの教会と修道院、コプト博物館などの建物は、すべてローマ時代のバビロン要塞を利用した壁の中にある。これはコプトたちがさまざまな迫害から逃れようとしてこの地を選んだものだ。

#### コプトとは

コプトとはエジプトにおけるキリスト教の一派。ギリシア語の「エジプト」からきた言葉だ。彼らはいくまでキリスト教を信じている、原始のキリスト文化を守る人たちといわれる。元々エジプトにキリスト教を伝えたのは聖マルコと言われている、ネロ皇帝がローマ帝国を治めていた頃、アレキサンドリアは信者を増やしキリスト教の中心地となった。しかし、その後は人としてのイエスではなく、神聖だけを認める考え方は異端とされ度重なる迫害を受ける。7世紀半ばにイスラム勢力がエジプトに侵攻して、イスラムへの改宗が進み現在は国民全体の10～15%にまで減少してしまった。しかし、キリストの教えはエジプトにしっかり根付き、オールドカイロの教会にローソクの明かりは絶えることがない。コプトだけの信仰の場だった教会は、今では人気の観光スポットになっている。

7.50" 狭い石畳の路地では壁に絵や写真を並べて商売をしている、目立たない外観に造られた教会があり、その不思議な街並が観光客の人気になっているという。バスを降りると以外にも掃除をしているおばちゃんがいた、エジプトに来て掃除をしている人を初めて見た。その先路地の石畳から数段降りた半地下式のアブ・サルガ教会を見学した、何か香の漂う中お祈りが行われていた。

ここも写真は撮れず記憶も曖昧だが、部屋は四角の造りでとても古い物だとは分かった。祭壇に向かって左手奥に地下道がある、聖家族がエジプトに逃れてきた際、幼いキリストと聖母マリアが身を隠した場所と言われているのだ。20分程の見学を終えて表に出ると両側に壁がそそり立つ路地が続き、不思議な街並がとても印象的だった。



オールド・カイロの石畳



エジプト考古学博物館

### 2 偉大なファラオの遺産が12万点以上

8.50" から考古学博物館の見学をする、ベージュ色の2階建ての建物はなかなか落ち着いた造りだ。フランス人考古学者マリエットによって創立されたもので、正面にはエジプトを象徴する植物「パピルス」と「ロータス」が植えられている。古代エジプトを語るなら、ここを訪れないと始まらないとまで言われるように、巨大なファラオの像から小さな土器のかけらまで、館内にあるすべてものに古代エジプト

の栄光と様々な思いが詰まっている。まるで5,000年前の世界にタイムスリップしたような不思議な空間だ、この展示品の中で唯一本物でないものがある。それは口ゼッタ・ストーンで、本物はイギリスの大英博物館にある。ここもカメラは禁止なのでガイドの説明をしっかりと聞いて、できるだけメモをとるがたくさんの展示品を見ていると、頭の整理はとてもおぼつかない。メインのツタンカーメンの説明を聞くと後はフリータイムで自由に見学した。わずかな記憶とガイドブックを見て整理すると.....

## 2階ツタンカーメン関係

黄金のマスク...少年王のミイラが被っていた重さ11kgの純金製。目の部分には水晶と黒曜石が使われ、額の上のヘビとコンドルは上下エジプトを表す

黄金の棺.....内棺は3重の人型棺の内1番内側にあった棺、純金製で重さ110.4kg  
胴体にはやはりヘビとコンドルが描かれている、外棺は人型棺の木製

カノポス櫃.....ミイラを作るとき取り出した内臓を入れる容器、金箔が張られている  
その大きさから墓の中で組み立てられたものという

黄金の玉座.....背もたれにはツタンカーメンと王妃アンケセナーメンが描かれている  
肘掛には王のカルトウーシュを守る翼を広げたコブラが見られる

カーの立像.....ツタンカーメン王の等身大の立像、カーとは守護霊を意味する、左足を1歩前に踏み出す姿は、甦りを意味する

他にはパピルスの皮で作られたベット、神輿に乗った山犬、太陽の舟などの展示、それと矢車草の種もツタンカーメンの墓から見つかっているという。

## 1階の主な展示品

ジョセル王.....4800年前のもので、この博物館最古の展示品

書記座像.....書記は当時エリートであった、パピルスの巻物を膝にのせている

ハトシェプスト女王の像...古代エジプト史上では異例の女性のファラオ、像は男性の姿で女王ではなく王として振舞った姿を現している

クフ王座像.....わずか7.5cmのクフ王像、クフ王の像は世界でこれ一つしかない

ラヘテプと妻ネフェルトの像...男性の肌は褐色、女性の肌は白に美しく彩色された傑作

アクエンアテン像...長い顔、突き出たお腹のファラオの像が並ぶ

メンカウラー王像...ギザの三大ピラミッドの一つを建てた王、ハトホル女神と地方神とともに並ぶ像

## 2階特別展示室の「ミイラ室」

見学には別途100ポンド(2000円)必要、決してお安くはない。この部屋はデリケートなミイラを保存する為温度、湿度、照明に細心の注意が払われている。エジプトでは多くのミイラが作られているが、それは死後、魂は肉体から離れた後、再び戻ってきて永遠に生きると信じられていたからなのだ。ガイドが説明してくれたミイラの作り方はこうだ.....

遺体から内臓を取り出す、但し心臓は残す 死んでも再生復活があると考えた為  
防腐処理として炭酸ソーダに40日間つける  
脱水した後包帯でぐるぐる巻きにした

このようにしてミイラを作り葬式を行った、葬式は30日もかけて行われたので死後70日後にお墓に入る。

ファラオのミイラが出来ると、アヌビス神の仮面をかぶった神官が祝福をして、豪華な副葬品も飾られた。なお内臓はカノポス容器に収めて一緒に埋葬された。

ここにはアブ・シンベル神殿などを建設した功績から、数多くのファラオの中でも特に有名なラムセス2世のミイラ、トトメス1世~4世までのミイラ、ハトシェプスト女王のミイラなどがある。小さな横文字の説明文で、名前を読み取ることが出来るのもこれくらい。その中でラムセス2世のミイラは頭に髪の毛が残っており、3100年も昔の人とは考えられず不思議な感じがした。

11.15"見学を終わりエジプト最後のランチに向かう。

## 3 ランチはエジプトの家庭料理

11.30"川べりのレストランに到着、かなり広い会場で結婚式も出来るような会場

になっていた。そこでガイドに聞いたのだが、エジプトの結婚については.....

。結婚年齢は男30歳、女25歳...都会  
男23歳、女20歳...田舎

。結婚式費用は30万円～50万円が普通、お金持ちは200万円かける

。所帯については男がすべて準備する、女は台所関係のみ.....とか

今日の料理は家庭料理とあったが、出されたのはマカロニとスパゲティーと一緒に炒めてあり、それに揚げ物が3個大皿にのっていた。マカロニのほうは特に味がなくてちょっと物足りない感じ、揚げ物は極普通の揚げ物だった。ということで食べられるのだが、おいしいとかまずいという特徴のないものだった。ステラビールは初めて瓶ビールが出された、やはり瓶ビールのほうが旨いような気がした。これでエジプトにおける食事はすべて終わった、使われている材料からすればいくらでも食べられるはず、でも箸が進まない。油濃くて食べにくいのだ。いつも食べている日本料理にかなうものはないということだろう。

12.15"食事を終って店を出る、入り口にはツタンカーメン王のカーの立像があった。せっかくなのでカーの立像と記念写真を撮った。



家庭料理のランチ



カーと一緒に記念撮影

#### 4 ハン・ハリーリの探索

12.40"ハン・ハリーリバザールに到着、現地では「カーン・エル・カリーリ」と呼ばれる。ハンとは隊商宿のことで、かつてこの一帯に隊商宿が数多くあった。14世紀後半の改装工事に続き、数回の修復を経て現在の姿になった。たくさんの店が並び迷路のような細い通路に人がひしめいている。

ここで1時間のフリータイムとなる、広場から細い通路に足を踏み入れるとまるで景色が変わってしまう。高さ4m程までエジプト綿と思われる布製品がびっしり並んでいるその前は身動きできないほどの人の波が続いており、それだけで圧倒されてしまう。われわれも探索を開始する、迷路のような通路に入るとまったく方向感覚がない、これでは間違いなく迷子になってしまう。そこで左へ左へと曲がって行くことにして進むが、行けどもいけども店があり、かつ枝道があるのだ。もちろん地元の人には通路がどのようになっているのか頭に入っているのだろうが.....。

あちこちからの呼び込み振り切りながらお目当ての品物がある一軒に入った、ツタンカーメンの小さな置物だ。一個8ドルというので「ノー5ドル」と言い返す、が全然引かない、そこで今度は「トゥー12ドル」と返すと「オー、アリババ」ときた。何とそれでは盗賊だと言うのだ、何度もこれを繰り返すもディスカントには応じてくれず、結局こちらが折れてしまった。2個15ドルの買い物をして店を出ると、目の前にパピルスなどの小物を扱う店がありそこへ入る。ここの店主は物静かな少しお年寄り、無理に押し付けない。とても感じが良かったのでパピルスの絵と葉、それにポンドの小銭分だけツタンカーメンやクレオパトラを描いた丸型のマグネットを孫用買った。とりあえずの買い物は出来たので、左へ左へ回って元の場所へもどった。すると佐溝さんたちが「チャイ」というお茶(ハーブティー)を飲んでいて、そこでわれわれも飲んでみようとして席に着いた。緑の葉っぱにお湯を注ぎ砂糖やミルクを入れて飲む。味は良かったが熱くてなかなか飲めないのが難点だ、それに3ドルという値段は明らかに観光客向けだ、現地のお茶がそんな高い値段とは思えない。でもエジプト

の雰囲気堪能することはできた、13.40"市場を後に空港へ向かう。



市場前の広場



市場のひとつ

## 5 子供のいたずらに悩まされる

14.25"空港着、すべての予定を終了した。何のトラブルもなく帰国できそうなのでヤレヤレ。エジプト航空MS-0962は予定通り18.00"大阪関西空港に向け離陸した、くる時と同じように機内はがらがらだ。飛び立って1時間後くらいに機内食が出る、食事が終わると皆疲れているのだろう静かになる。そのころにエジプト人の3人姉妹の子供が通路を走り回って遊んでいた。横になっていたがうるさいので、少しはなれた後ろの席に移動した。そのうち少し静かになったので元の席に戻った、ところがまた走り回っている。今度はライトを点灯されて飛び起きたが、その辺りにはいない。しゃくにさわったのでしばらく監視していると、一番小さい子がライトのスイッチを押しているのだ。近くにきた時に「ノー」と怖い顔してどなりつけたが、きょとんとしている。言葉が分からないからだが、再度来た時にもう一度大きな声でしかりつけたが、スイッチのある肘掛から手を離そうとはせず、顔がこわばっていた。その前から客室乗務員の呼び出しスイッチは押しているのだが来てくれない、そのとき隣の通路を乗務員が通りかかったので呼び止めた。事情を説明して子供たちを親の席へ引き取ってもらうことができやれやれ。乗務員ももう少し機内の様子に気を配ってほしいものだ。

そして無事に12.25"関西国際空港に着陸してエジプトの旅は終わった、ここからバスで名古屋まで戻り16.15"名古屋駅に到着した。